



日本銀行
那覇支店長
一上響 様

古酒を知つたのは、18歳のときである。飲んだのではない。漫画で読んだのだ。

漫画「美味しんぼ」では、食通を気取る権威ある人々に対し、主人公の山岡が食つて掛かるのがお決まりだ。古酒の回

でも、日本には長期の

熟成に耐える蒸留酒がないと嘆き、泡盛を洗練されていないと決めつけの文芸評論家を沖縄に連れていく、すっかり古酒の虜にしてしまう。

100年以上も寝かせた古酒があると聞いて評論家らが驚愕する場面や、20年、30年、40年ものと飲み進めていくうちに感動を深めていくところをみて、日本人として、なんとも誇らしい気持ちになつたのを覚えている。

沖縄に赴任後、泡盛のことを学ぶ機会が増えた。熟成を進めうえでワインのように厳格な温度管理が必要ないことや、血液をサラサラにする健康効果があるといわれていることも学ん

泡盛賛エッセイ⁽¹²⁸⁾



県外の人々にも愛される泡盛となりました。

近年でも、沖縄の酒造メーカーは、様々な努力を続けています。

このため、一部メーカーは、グローバル化をチャンスとばかりに打つて出している。世界中で泡

盛が愛され、日本人として一層誇れる日が来るこ

と期待している。

だ。一方で、泡盛の出荷は、コロナ禍前から低下トレンドをたどっていることも知つた。沖縄県民の嗜好がチューハイ等にシフトしていることなどが背景として指摘されている。

泡盛には逆境を乗り越えてきた歴史がある。戦争によつて多くの酒造所が焼失し、麹菌が失われる危機にも見舞われた。戦後に酒造が再開された後も、原材料不足に苦しみ、輸入酒にシェアを奪われた。その後、酒造技術の向上に向けた努力もあって、

後に酒造が再開

された後も、原

料不足に苦しみ、

輸入酒にシェア

を奪われた。そ

の後、酒造技術

の向上に向けた

努力もあって、

後に酒造が再開

された後も、原

料不足に苦しみ、

輸入酒にシェア

を奪われた。そ

の後、酒造技術

の向上に向けた

努力もあって、